



* 仙台市衛生研究所ホームページ: <http://www.city.sendai.jp/shisetsu/hokenfukushi/eisei/1577.html>

今回は2012年の仙台市の
感染症発生状況についての速報です

感染症発生動向調査とは、感染症の予防と蔓延防止に役立てるため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、感染症法)に基づき、定められた感染症について、診断した医師からの報告をもとに、感染症の発生状況を調査し、分析・公表するものです。

感染症法では、対象となる感染症を感染力や罹患した場合の重篤性等により一類～五類、新型インフルエンザ等感染症に類型化し、診断した医師に届出を行うよう規定しています。なお、一～四類感染症、五類感染症の一部、新型インフルエンザ等感染症は**全数報告対象感染症**^{*1}に分類されており、それ以外の五類感染症は**定点報告対象感染症**^{*2}に分類されています。

仙台市衛生研究所では、医療機関から保健所を通して報告のあった感染症情報のとりまとめを行い、週1回(対象疾患によっては月1回)、**仙台市感染症発生動向調査情報**としてウェブサイトなどで公開しています。それらをもとに、今回は2012年の仙台市の状況についてまとめました。

※本データは速報値です。追加報告等により修正される可能性があることを御承知おきください。

※1 全数報告対象感染症: 診断したすべての医師に報告が義務づけられている感染症。

※2 定点報告対象感染症: あらかじめ定点として指定された医療機関に報告が義務づけられている感染症。決められた期間中(1週間または1ヶ月)に診断された患者数を報告する。

トピック

風しんの報告数が急増しています

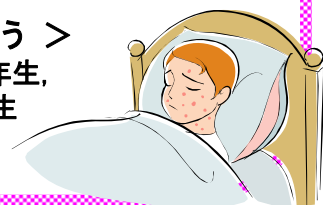
風しんとは、風しんウイルスによっておこる**急性の発疹性感染症**で、流行は春先から初夏にかけて多くみられます。潜伏期間は2～3週間(平均16～18日)で、主な症状として**発疹**、**発熱**、**リンパ節の腫れ**が認められます。

2012年は国内で2,353例(男性1,771例、女性582例)の報告があり、過去5年間では最も多い報告数となりました。2012年の報告によると、近畿地方や首都圏での報告が多く、患者の7割以上は男性で、うち20代～40代が8割を占めました。今年も既に745例(男性591例、女性154例)の報告があり、2012年と同様の傾向がみられ、特に首都圏での増加が顕著となっています(2013年第7週現在)。

20代～40代の女性の9割以上は風しんへの十分な抗体を持っていますが、抗体を持たない妊婦とくに、妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障害(**先天性風しん症候群**)が起こる可能性があります。昨年の流行の影響で、2012年10月から2013年1月末までに、6人の先天性風しん症候群の患者が報告されました。妊娠中は予防接種が受けられないため、妊婦の周りには、風しんを発症しないように予防に努めてください。

< 風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう >

風しんの定期接種対象者である**1歳児**、**小学校入学前1年間の幼児**、**中学校1年生**、**高校3年生相当の方は無料**で受けられます。ただし、**中学校1年生**、**高校3年生相当の方は、平成25年3月31日**までです。



1. 全数報告対象感染症

2012年に診断・報告された全数報告対象感染症を表1にまとめました。

表1 2012年全数報告対象感染症発生状況(仙台市)

類	疾病名	報告数	推定感染地域
二類	結核	171	国内163例, 中国3例, バングラデシュ1例, 不明4例
三類	細菌性赤痢	1	トルコ1例
	腸管出血性大腸菌感染症	63	国内63例
四類	E型肝炎	2	国内1例, 不明1例
	A型肝炎	1	国内1例
	つつが虫病	1	国内1例
	デング熱	3	フィリピン1例, ミャンマー1例, タイ1例
	レジオネラ症	17	国内15例, トルコ・キルギス1例, 不明1例
五類	アメーバ赤痢	15	国内15例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	(届出対象外)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	国内2例
	後天性免疫不全症候群	10	国内7例, ケニア1例, 不明2例
	梅毒	16	国内16例
	風しん	5	国内5例

2012年は例年同様、結核、腸管出血性大腸菌感染症、レジオネラ症、梅毒、アメーバ赤痢、後天性免疫不全症候群の報告数が多くありました。推定感染地域が海外の症例は10例あり、デング熱のような熱帯・亜熱帯地域で見られる疾患の報告もありました。

また、感染原因として「性的接触」が疑われるものは21件(アメーバ赤痢15件中1件、後天性免疫不全症候群10件中9件、梅毒16件中11件)、「動物・蚊・昆虫等からの感染」が疑われるものは3件(つつが虫病1件、デング熱3件中2件)ありました。

2. 定点報告対象感染症

2012年に診断・報告された定点報告対象感染症について以下にまとめました。

【2012年 仙台市内定点医療機関の内訳】

小児科定点	26
インフルエンザ定点	42 (内科定点16+小児科定点26)
眼科定点	6
性感染症定点	8 (婦人科, 泌尿器科, 皮膚科)
基幹定点	5 (病床数300以上の小児科, 内科及び外科を含む病院)

2012年の週報告対象感染症は、RSウイルス感染症が夏季に、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が冬季に、マイコプラズマ肺炎が夏季から冬季にかけて例年よりも多い傾向がみられました。また、インフルエンザは年明けから2011/2012シーズンの本格的な流行がみられました。(グラフ1)

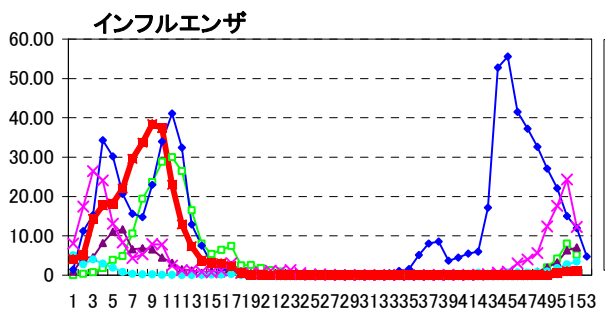
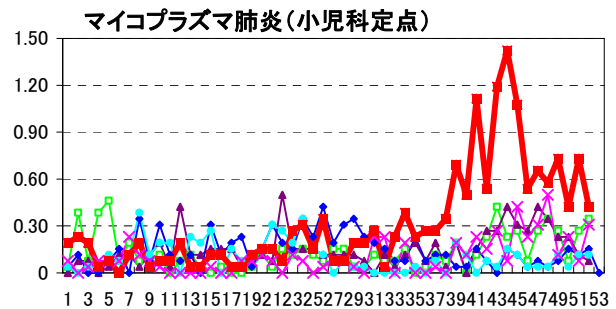
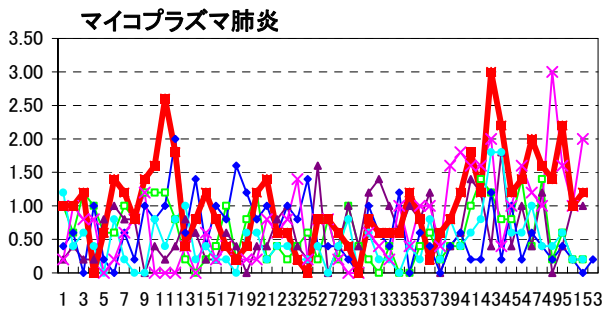
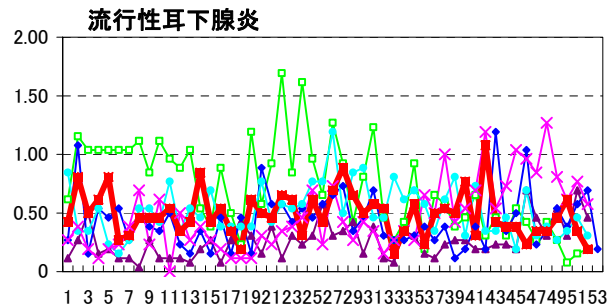
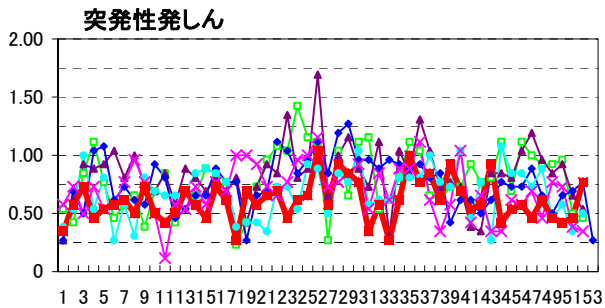
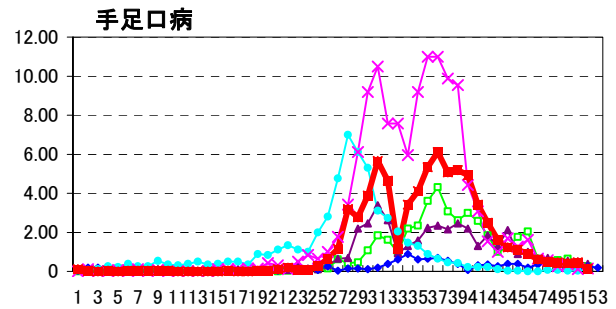
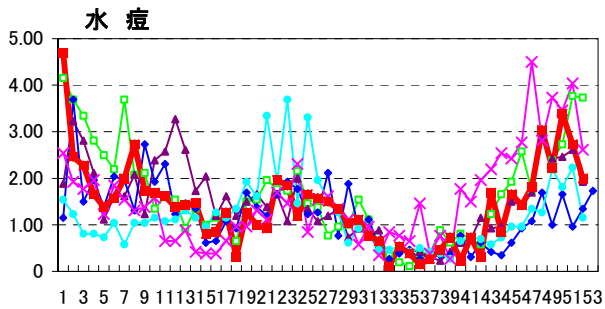
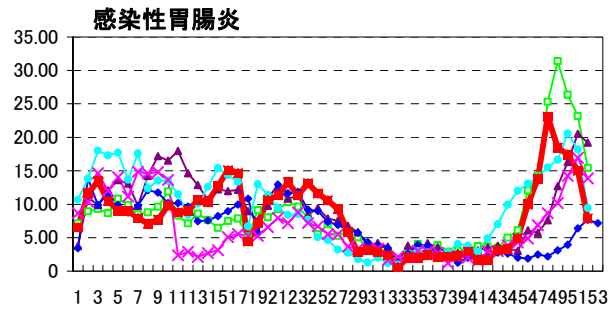
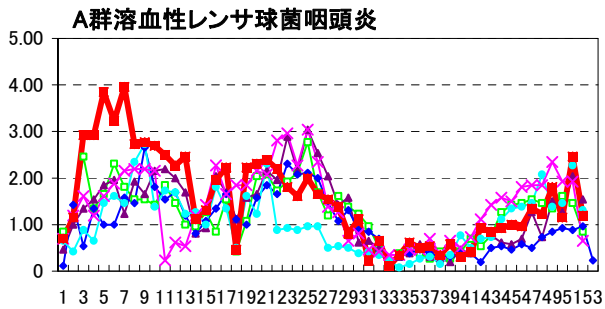
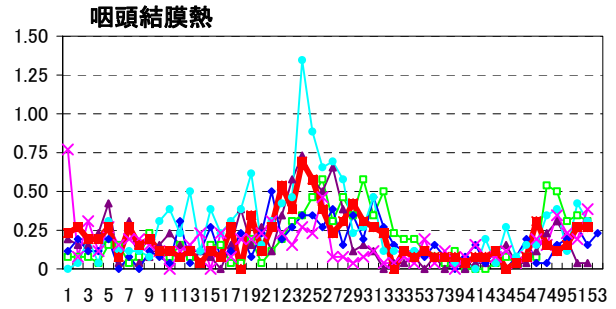
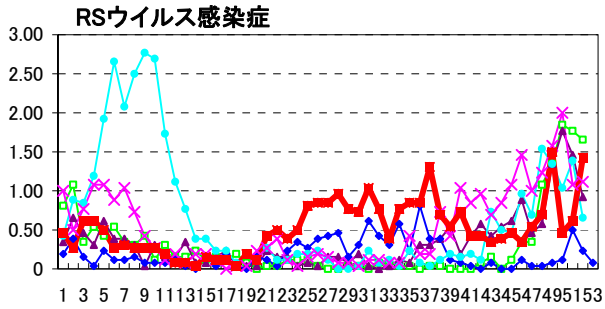
また、月報告対象性感染症では、いずれも20~30代の年齢層に患者報告数が多い傾向がみられました。(グラフ2)

全国の情報は [こちら](#) ↓

「国立感染症研究所 感染症情報センター」 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

グラフ1 主な週報告対象感染症の発生状況（仙台市，2007～2012年）

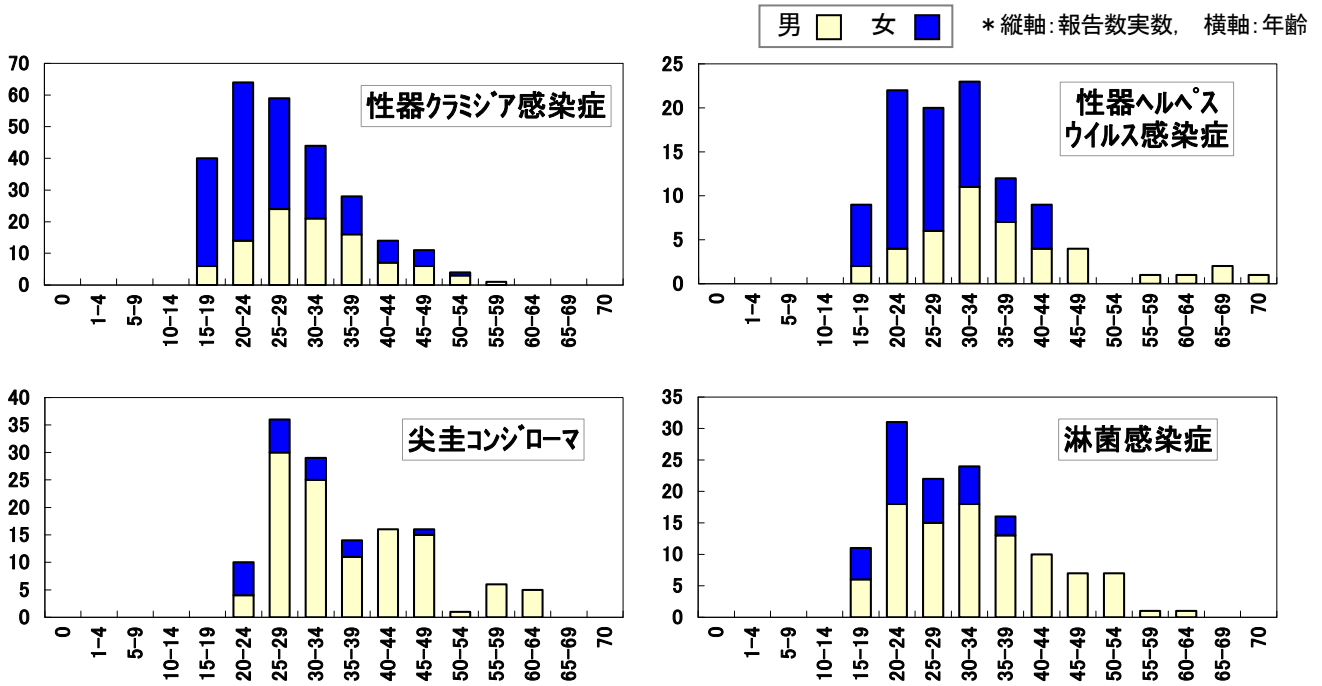
* 縦軸：定点当たり報告数， 横軸：診断週



- 2007年
- △— 2008年
- ◇— 2009年
- 2010年
- ×— 2011年
- 2012年

定点当たり報告数とは？
 報告数の合計を、定点としてあらかじめ指定された医療機関の数で割った「1医療機関当たりの平均報告数」のことです。
 例え ば
 インフルエンザの報告数が 20件、
 定点医療機関の数が 5 の場合
 $20 \div 5 = 4.0$
 「定点当たり報告数：4.0」となります。

グラフ2 定点報告対象性感染症 年齢階級別報告数(実数) (仙台市, 2012年)



無料・匿名で
受けられます!

【エイズ & 性感染症の相談・抗体検査】

検査会場	検査日	受付時間	予約	結果通知	HIV	クラミジア	梅毒 ^{※2}	問合せ・相談
結核予防会 宮城県支部 健康相談所 興生館 ^{※1} (青葉区宮町1-1-5)	第2・4金曜日 【夜間】	17:00~19:00	要 予約	即日	○	×	×	【予約専用】 平日13時~16時 090-4478-4641 【問合せ】 214-8029 (感染症対策課)
青葉区役所 2F	第3土曜日【休日】 ※6月, 12月を除く	13:30~15:00						
青葉区役所 2F	第1木曜日 【夜間】	17:30~19:00	予約 不要	1週 間後	○	○	×	225-7211 (管理課 内線6715)
	毎週金曜日	9:00~11:00			○	×	○	
宮城野区役所 3F	第1・3木曜日	9:00~10:30			○	×	○	291-2111 (管理課 内線6717)
若林区役所 3F	第2・4水曜日	9:00~10:00 ^{※3}			○	×	○	282-1111 (管理課 内線6715)
太白区役所 3F	第2・4火曜日	13:30~15:00			○	×	○	247-1111 (管理課 内線6717)
泉区役所 東庁舎 2F	第1・3月曜日	9:00~10:30			○	×	○	372-3111 (管理課 内線6716)

※ 祝祭日, 年末年始は実施しません。

※1 平成25年4月より検査会場が変更になります。

【結核予防会 興生館 → 宮城県歯科医師会館 1F (青葉区国分町 1-5-1)】

※2 平成24年5月より HIV 検査と同時にできる梅毒検査を実施しています。

※3 平成25年4月より受付時間を 9:00 ~ 10:30 に延長します。



詳しい情報はこちら ↓

「エイズの相談・抗体検査」 http://www.city.sendai.jp/kenkou/1190058_2485.html

仙台市衛生研究所
〒984-0002
仙台市若林区卸町東 2-5-10
TEL: 022-236-7722

今回の担当:

微生物課 企画調整係 菅野